

第7回

時間学カフェ



日時：平成30年6月28日（木）13：30～

場所：時間学研究所 所長室

（吉田キャンパス総合研究棟 106）

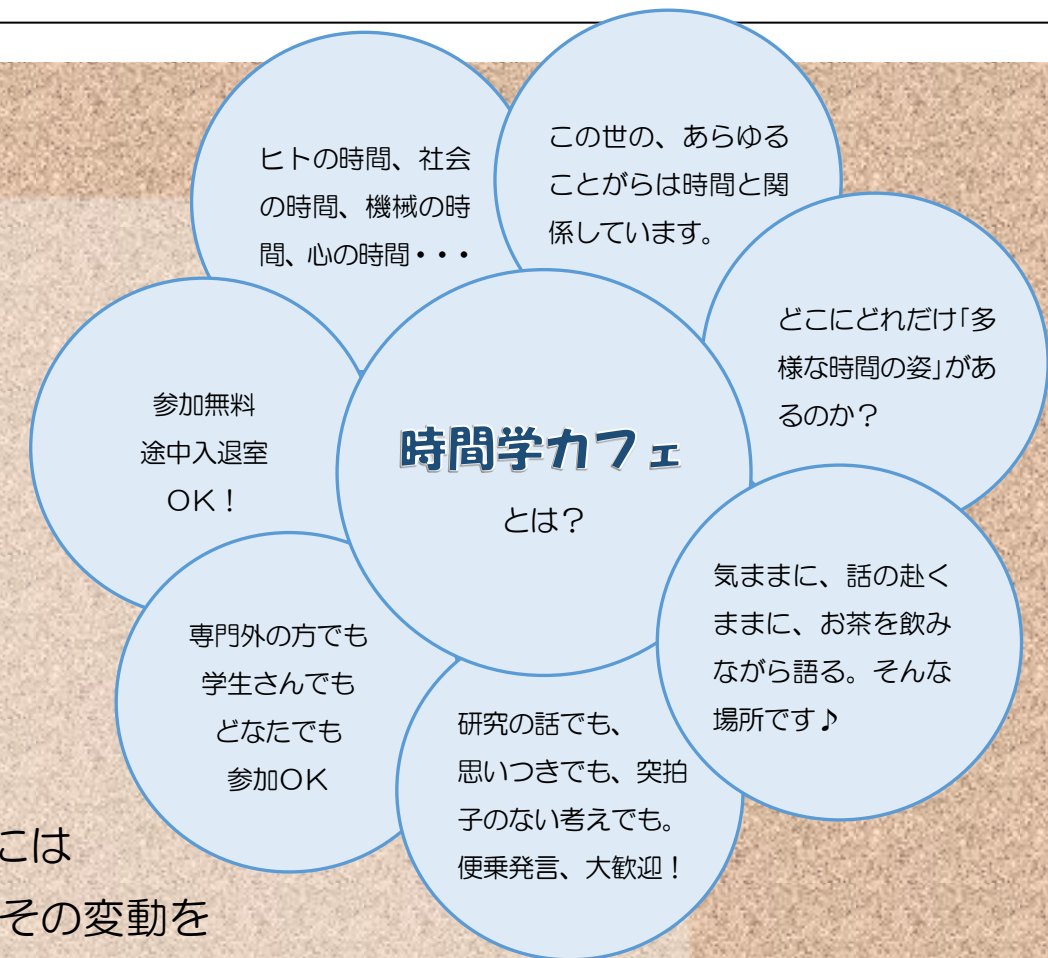
話題提供者

青木 貴弘 先生

（時間学研究所・助教（特命））

【山口電波望遠鏡による時間領域天文学】

空に浮かぶ星々は、一見すると何も変化せずそこにあり続けているが、実は人には知覚できないような早さ（または遅さ）で明るくなったり暗くなったりしている。その変動をとらえ動的な宇宙を明らかにしようという学問を時間領域天文学とよぶ。星の爆発はその一例で古代の文献にもしばしば登場し、例えば平安時代には、陰陽師が突如として現れた新しい星を発見し、藤原定家の「明月記」にそのことが記載されている。この爆発の残骸は今も輝き続けており、さらにその残骸の中心には、直径20kmの中に太陽2個分の質量をもつ星（山口駅から防府駅の間、地球70万個を押し固めたくらい高密度な星）が残されている。最近山口アンテナを用いてその星を電波観測したので、時間領域天文学の概要とともに紹介する。



お問合せ先

時間学研究所事務室 TEL：083-933-5848 MAIL：sh076@yamaguchi-u.ac.jp